

●テーマセッション(80 分)

「コーポレートベンチャリングの新展開 –理論の拡張と日本における実践の多様化–」

◎新藤晴臣 (大阪市立大学大学院 都市経営研究科 教授)
橋本良子 (事業構想大学院大学 事業構想研究科 教授)
木川大輔 (東洋学園大学 現代経営学部 専任講師)

ワークショップ形式

〔 概 要 〕

コーポレートベンチャリング(CV)に関する研究の歴史は、1960 年代における米国の社内ベンチャー (Internal Corporate Venturing : ICV) に関する研究まで遡られるとされます。日本においては 1980 年代～1990 年代に、大手メーカーを中心に社内ベンチャーが積極的に創出され、2000 年代に入ると、ICT 系を中心としたメガベンチャーによる、コーポレートベンチャーキャピタル(Corporate Venture Capital : CVC)投資が盛んに行われるようになっております。さらに現在では、CV の実施主体となる企業も大手メーカーやメガベンチャーに限らず、製薬業、通信業、航空業など、多様な産業に拡大しており、そこで採用される CV の形態も、イノベーションと結びつくなど、複合化・多様化しつつあります。

本セッションでは、日本における新たな CV 現象の位置づけとその方向性について議論することを目的としております。そのために本セッションでは、CV に関する先行研究の流れを確認しつつ、日本における CV の先端的な事例を紹介する予定です。具体的には、①大企業における ICV のリニューアル、②メガベンチャーによる CVC 投資、③外資系日本法人によるベンチャー企業とのアライアンスという 3 つの事例を紹介します。これら 3 つの事例を取り上げた理由としては、ICV、CVC 投資、ベンチャー企業とのアライアンスという別個の CV の形態を採用している点と、いずれも最先端事例である点が挙げられます。これら 3 つの事例をベースにディスカッションを行うことで、日本における新たな CV の理論的位置づけを確認するとともに、その展開の方向性について、俯瞰していきたいと考えます。

〔 参加者へのメッセージ 〕

10 月 20 日(日) 14:40～16:00 開催(C 会場:1-303)

本セッションでは CV 理論の流れについて簡単な報告を行ったのち、代表者を含む 3 名の報告者により、日本における CV の 3 つの事例について報告を行います。その後、報告者 3 名がパネリストとなり、フロアとの間でディスカッションを行います。これらのディスカッションを通じて、日本における新たな CV の展開の方向性と、理論的位置づけについて、フロアの皆様とともに発見・共有していければと考えております。学会員の皆様の多様かつ深い知見を通じて、CV に関する理論の拡張に、少しでも寄与できればと存じます。ご参加頂いた皆様と貴重な意見交換の機会を持てますことを、報告者一同、心より楽しみにしております。